

Title	洛星高校プロジェクト2011 : 臨床哲学研究会を終えて
Author(s)	
Citation	臨床哲学のメチエ. 2011, 17, p. 14
Version Type	VoR
URL	<a href="https://hdl.handle.net/11094/7814">https://hdl.handle.net/11094/7814</a>
rights	
Note	

*Osaka University Knowledge Archive : OUKA*

<https://ir.library.osaka-u.ac.jp/>

Osaka University

# 洛星高校プロジェクト 2011

## —臨床哲学研究会を終えて



**臨**床哲学研究室のメンバーが洛星高校で授業を行う試みは2004年から続けられています。(メチエ14～16号参照) 昨年度まで中心的な役割を果たしていた中川雅道さんから活動を引き継いだ今年度は、昨年度の参加者に新しいメンバーが加わり、本間直樹さんをはじめ学部生院生入り混じっての10人体制で洛星高校プロジェクトの活動に取り組んでいます。いままでに授業の題材に加え、新しくハワイからやってきたコミュニティボール\*なども取り入れながら、「相手の話を聴くこと、問いを自分のものとして引き受けて考えること」を目標に授業を行なう日々です。

**ま**た、第25回の臨床哲学研究会では、シンポジウム「高校での臨床哲学の試み—過去・現在・未来—」が行なわれました。ワークショップには現在のプロジェクトメンバーも参加させていただきました。その際にこれまで授業を担当されてきた會澤久仁子さん、檜本直樹さん、紀平知樹さん、藤本啓子さん、中川さんのお話を聴いて、またワークショップや全体討議を通して刺激を受けながら、今年度の授業を通して考えたことをプロジェクトメンバーのうち6人がそれぞれ文章にしました。現在のメンバーがどんなことを考えながらプロジェクトに参加しているのか、のぞいていただければと思います。